

生徒指導だより

第13号

令和7年6月4日発行
市川市立大洲中学校
生活指導担当

体育祭 その1

予定の日での開催ができず順延となりましたが、今年度の体育祭が開催されました。4年連続で開催日前日が雨となり、グラウンドコンディションを整えるところから始まる体育祭となりましたが、係の生徒や部活動の生徒たち献身的な準備により、無事開催することができました。

朝の準備は、体育委員を中心とした委員会単位、野球部を中心とした部活動単位で、水取りから土を入れて整地までのグラウンド整備が行われました。おかげで雨の後とは思えない環境で体育祭を開催することができました。

P T Aの本部役員をはじめとした保護者の方々には、応援席や役員席の遮光ネット張りから終了後の様々な物品の撤収など、たくさんの場面で体育祭の円滑な運営を支えていただきました。みなさんが登校する前に、グラウンド整備を手伝ってくださった保護者の方と卒業生もいらっしゃいました。学校は、生徒と教員だけでなく、保護者の方々の支えで成り立っていることを実感することができました。

先生方も、井上先生、山内先生、尾崎先生、夜間学級の稲木先生は、朝の6時頃から、その他の先生方も朝早くから、グラウンド整備からテントの設置など、良い体育祭にするために、担当の役割以外の部分でもどんどん仕事を進めました。

みなさんが終了後にクラス写真を撮影していた際、閉会式後に残っていた今年の3月に卒業した先輩たちが役員席のイスの片づけなどを手伝ってくれました。

体育委員会委員長の渡邊君が限られた時間のあいさつの中で、「感謝」という言葉を使っていましたが、体育祭のために様々な立場で尽力してくれた人たちに対して、一人一人が感謝の気持ちを持つことができていたとしたら言うことなしです。

体育祭前の金曜日に、体育委員の代表の人たちが、「終わった時に楽しかったと思える体育祭を」ということを話していました。閉会式の時、そしてクラス写真を撮っている時、みなさんは「楽しかった!」と感じることができたでしょうか。ベストのコンディションで臨めなかった人もいるので、「全員が」というわけにはいかなかったと思いますが、たくさんの人がそれを感じることができていたのなら、体育祭は成功です。今回残念ながら、「楽しい」以外の気持ちが残ってしまった人。その思いは、どこかで別の形で必ず取り返すことができます。

今年の体育祭を見ていて、全体の動きの中で、ここ数年でいちばん良かったのではないかと感じたことがありました。生徒指導だよりの第12号の中で、「リーダーとフォロワー」についての話を載せました。その「フォロワー」としての動きがとても良かったように感じられました。開会式後の退場を想定した練習の中で、白組は、最後尾のクラスまで止まることなく退場することができました。自分の退場が終わるとガクッとスピードを緩め（場合によっては歩き）、それが後方の人が止まってしまう原因を作りますが、白組は、練習から本番までそれが一度もありませんでした。また、連絡を伝えられる時など、応援席などで指示をされてから静かになる時間が短かったです。それ以外にも、集団全体のリアクションが早いと感じた場面がありました。そして、大洲中ストレッチの時の隊形がきれいでした。まさに立派な「フォロワー」であった場面が随所に見られました。

第14号に続く